

JANOG42 若者支援プログラム参加レポート

筆者：電気通信大学 大学院 2年中西建登

本レポートは、2018年7月11日から7月13日まで三重県津市にある三重県総合文化センターにて開催された、JANOG42ミーティングのレポートである。筆者は若者支援プログラムを用いて JANOG42 に参加し、本レポートを書いている。

JANOG Meeting に参加した全般的な感想

JANOG Meeting に参加して改めて思ったのは、インターネットを運用する上で考えることは多く存在しているということである。今まで私は技術のことばかりフォーカスしていたが、インターネットを運用する為には法律や倫理など更に考えなければいけない部分が多くあることを改めて感じた。

株式会社インターネットイニシアティブの松崎さんが会中にインターネットのことを「幻想」と表現しており、この部分に関しては大きく衝撃を受けた。「インターネット」と言う事は簡単であるが、その定義は難しい。私は JANOG に参加されている皆さんのようにまだインターネットをサービスとして提供した経験がある訳ではないため強く意識したことがなかったが、NTT の提供する NGN は体外接続はないものの多くのユーザや NTT 内の局舎に接続することが出来るためインターネットと呼称することは可能かもしれないし、検索エンジンの Google や、iOS の基盤として利用しているであろう Apple のバックエンドシステムだけが落ちてグローバルな接続は行えるインターネットが使えなくなったと呼称されるかもしれない。

最後のポリティカルなセッション3連発において、インターネットが技術以外の要素も含め様々な物が入り交じって出来ているという事が理解できた。

また、質問の方が似通っているのではないかと感じる部分はあった。議論が中心の会であるという風に伺っていたが、実際に参加してみると確かに質問や議論は途絶えなかったものの、発言している人間は被っている場合が多く1度でも広い場で声を出した人間は100名も居ないのではという感想を受けた。

Twitter や Slack などそれほど盛り上がった訳ではなかったため、残り900名の方々がどのような場所で議論を行っているかについては分からなかった。もしそのような議論している場があるのであれば、その場所への導線があれば良いように感じた。

JANOG Meeting に参加して得たこと・今後やりたいことなど

JANOG Meeting に参加して、今後ネットワークの自動化については今後考えていきたい部分だと感じた。

ネットワーク機器、主に ASIC にオフロードしていた部分が汎用的なコンピュータでも十分に処理できるようになり、データプレーンとコントロールプレーンの分割が進むことでネットワークの自動制御は現実的になりつつあるように感じる。そもそも伝送を行うためには IP 以前に物理的な結線が必要であるため、そのケーブルの処理を行う際に設定変更を行うことでそれほど大きく作業量は増えなかったが、そもそも既に結線してしまった上で処理を行い、データプレーンのみ自由に変更を行うような設計を行うことで様々な自動化を行う準備が整っている。

とはいえ、まだまだそのような技術群を扱う為に必要な機材や電力は膨大であるため、学生だけで試すのはネックではないかとも感じている。以前は学生個人に対して検証用の機材を貸し出すということがままあったと聞いており、現代の学生がどのように近代的なネットワークを学ぶべきなのか、は課題の1つと感じた。

JANOG Meeting で印象に残ったプログラムとその感想

“通信エンジニアが知っておきたいイマドキの電力業界事情” は強く印象に残ったセッションであった。

昨今 B ルートやスマート電気など、日本の電力事情においてもようやく選択権が発生しているが、諸外国ではそれ以上に発達しているという点で驚きがあった。様々な物が API 経由で処理できるように出来れば、自動的にどこに対して電気を

売るのか、供給するのかを決定づける事が出来るはずなため、理論上は可能であるとは考えていたが、それを動的に5分前まで決定出来るというのは大きなメリットではないかと思う。とはいえ、ライフラインの1つである電気がある意味で不安定になってしまえばそれは大きな損害に繋がるため、絶対的な安定が必要なはずである。諸外国がその問題を解決出来ているのかは興味深い部分である。

また、いくつかの事業者が居る中で価格面や安定性などは消費者の選択において十分考えるべき項目ではあるはずだが、その部分の法整備などは進んでいるのかも興味深い点である。事業者側の経営保護や、消費者側の選択権、選択失敗時の保護手段など、ライフラインであるだけに考慮すべき項目、行政が1つの線引きをする必要があるように感じるが、導入が進んでいる諸外国がどのように処理/解決しているのかは今後調べたい。

その他、各自で JANOG ・ 自分に対して思った感想 ・ 目標など

JANOG では様々なセッションも魅力的であったが、多くの人とお話出来たのも大きな収穫であったと感じた。若者支援、懇親会、慰労会と、3日間全てにおいて様々な立場の方とお話する機会があり、今までお話ししてみたかった方などともお話しすることができ非常に貴重な経験となった。今後とも可能な際は参加し続けたい。

若者支援プログラムがあったからこそ参加することができたため、関係者の皆さまには謝意を表明したい。本当にありがとうございました。強いて1点改善案をを挙げるとすれば、経理計算はもう少し簡略化しても良いのではと感じた。経理確認を行う為に昼休みの時間で担当者の皆さんの時間がかなり削れてしまっているように見受けられたため、詳細なチェックは行わず申請者の居住者で一定額を支払い、もしホテルの状況などでどうしても超えてしまう場合は適宜連絡して調整する、という形にすることで、経理計算の手間を省くことは可能ではないかと考えた。